

KSPN-JSPN Joint Meeting 2017 in Seoul (ソウル、韓国 2017.5.19)に参加して

北海道立子ども総合医療・療育センター 脳神経外科 大森 義範

Moon JG 会長のもと 2017 年 5 月 19 日に第 29 回韓国小児神経外科学会(KSPN)が韓国・ソウルで開催され、その中の KSPN-JSPN Joint Meeting に参加させて頂きました。

日本小児神経外科学会会員が KSPN へ参加するジョイントセッションで、来年は KSPN の先生方が JSPN のジョイントセッションに参加するというように、隔年でお互いの国で交流を行うという形式になっています。今回、日本から参加された先生は 11 名でした。

参加を決めたあたりから朝鮮半島をめぐる国際情勢の雲行きがあやしくなりはじめ、飛行機のチケットはとったものの、本当に参加するかどうか迷いが生じていました。最終的には韓国大統領選の結果とソウル市内の緊迫感はないという間接的な情報をもって、5 月 10 日に行くことを決めました。実際、仁川空港を出て会場であるヨンセイ大学内のゲストハウス(宿泊先)まで向かう途中、行きかう人々に緊張感を感じられなく、拍子抜けでした。なお、奈良県立医科大学の朴先生より事前に詳細なスケジュールや会場へのアクセスに関して連絡があり、ほぼ迷うことなく目的地に到着することができました。

会場のあるヨンセイ大学は、日本でいう慶応大学のようなポジションと聞きましたが、その巨大キャンパスと大学病院本院であるセブランズ病院をはじめとする巨大病院群に圧倒されました。エントランスをウロウロするぐらいで、院内を詳しく見学する機会は無かったのですが、まずはそのハードに刺激を受けました。

Joint Meeting では special lecture などを含む 20 演題の発表があり、そのうち 11 演題が日本からの発表でした。今年のテーマは Pediatric Endoscopic Surgery で、invited lecture として西山健一先生の発表がありました。私は、新生児脳室内出血に関して内視鏡治療も絡めた報告をしました。新生児脳室内出血に関しては、セブランズ小児病院より早期産新生児に対して内視鏡で血腫除去を行ったケースシリーズが発表されており、疑問点がありましたが英語力不足で質問できなかったことが悔やまれます。韓国からの発表は、どの発表も扱っている症例数が多く、話にはよく聞きますが症例の集約化が徹底して行われている印象でした。

Meeting 後の gala dinner では、自分にまで自己紹介がまわってくるとは想定しておらず、朴先生に同時通訳をしていただきました。会場に笑いが起こったので、内容的には良かったのでしょうか。緊張もほぐれ、お酒がほどよく入った影響かもしれませんが、その後韓国の先生方も積極的にお話ができるようになった気がしました。gala dinner 終了後も韓流焼肉のお店に連れて行っていただき、日韓交流を深める事ができたと思います。近いからその気になればいつでも行けると思いつつ、今回訪韓ははじめてでした。実際に行ってみないとわからない事が多く大変有意義でした。もっとやりたい事、知りたい事ができたと思います。お誘い頂き、お世話して頂きました日本と韓国の諸先生方にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。

来年、東京で開催される日本小児神経外科学会での Joint Meeting ではもっと議論できるように、再来年には韓国に再訪できるように日々の研鑽を積みしたいと思います。



写真左：ヨンセイ大学 セブランス病院

写真右上：今年韓国へ留学予定、小谷先生(奈良医大)の発表

写真右中：懇親会:左は同時通訳される朴先生(奈良医大)

写真右下：懇親会二次会

(左手前は JSPN-KSPN 交換留学プログラムで昨年来日されていたセブランス病院小児神経外科の Kim 先生)